

1 今年度の研究テーマについて

児童生徒が自ら考え、表現する力を育む授業改善の在り方
～課題発見・解決学習における I C T 等の活用を通して～

2 研究の目的

平成 29 年度まで 3 年間の研究計画で「児童生徒が確実にステップアップするための授業づくり」と設定し、『広特版学びの変革 I I C E モデル』を軸に的確な実態把握や単元計画の指導内容、学習評価に焦点を当てて研究に取り組んできた。実態把握から目標設定・指導内容と丁寧につなげていくことで児童生徒の主体的な学びを引き出す授業になることがわかった。そして、平成 29 年度は学習評価にルーブリック評価を取り入れることで、児童生徒の目標達成する具体的な姿を想定して、目標達成するための指導内容や支援について考えることができた。平成 30 年度より『広島版「学びの変革」アクション・プラン』が全県展開される。その取り組みの中で、重要なポイントは「課題発見・解決学習」である。児童生徒が授業の中で考え、学んだことをつなげたり、学んだ内容を発揮したり表現したりする授業設計が教師一人一人に求められる。新学習指導要領では、「知識・技能」、「思考力、判断力、表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」の 3 観点が示されており、「思考力、判断力、表現力」や「主体的に学習に取り組む態度」の育成は教師が授業を行っていくうえで重要な要素だと考える。そこで、平成 30 度はこれまでの 3 年間の取組を踏まえたうえで、「思考力、判断力、表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」に焦点をあてて授業改善を進め、カリキュラムマネジメントを行っていく。また授業改善では、児童生徒に「何を」「どのように」伝えていくのかといったことや児童生徒が考える場面をどのように設定していくのか I C T 等の効果的な利用も含めて検討していく。

3 研究仮説

児童生徒の「自ら考え、表現する力」を育むことに焦点をあてて授業設計し、授業改善を行っていくことで児童生徒の主体的な学びをより引き出すことができるだろう。

4 研究方法

(1) 授業改善シート

- ・授業改善シート(別紙様式)に授業内容や評価等を記入する。
- ・授業改善シートを作成することで単元目標や各次の目標、日々の授業の目標のつながりを意識して、授業改善を進める。
- ・授業改善シートは教科会やクラス等で話し合いの時に活用する。

(2) 単元シートの作成・活用

- ・「思考力、判断力、表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」に焦点をあてた単元シート(別紙様式)で、単元目標を達成するために各次の目標や指導内容、ルーブリック評価を作成する。
- ・単元シートは全教員が前期の単元で 1 回記入する。記入した単元シートは、児童生徒が自ら考えたり表現したりする場面の設定や、効果的な I C T 等の活用について情報を収集するために活用する。
- ・単元シートは教科会やクラス等で話し合いの時に活用する。

(3) 校内研修

4月：授業に係る全体研修会で各種様式と研究概要の説明を行う。

8月：児童生徒の「思考力、判断力、表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」に関する研修を行う。

3月：平成30年度の研究のまとめ及び来年度の研究計画について報告する。

(4) 校内授業研究会、公開授業研究会での実践・検証

・事前指導案検討会を各学部で学部の時間で実施する。

・校内授業研究協議会、公開授業研究協議会は各学部で実施する

・「広特版学びの変革 I I C Eモデル」を意識した参観コメントシートを活用する。

①校内授業研究会

(ア) 肢体不自由部門

・各学部1回実施する。

(イ) 知的障害部門

・高等部1回、小・中学部で1回実施する。

②公開授業研究会

・両部門同日開催で行う。(平成30年12月7日)

・肢体不自由部門は各学部、知的障害部門は高等部と小・中学部で実施する。

(5) 情報発信

・『広島県立広島特別支援学校版「学びの変革」アクションプラン』を記入して各学部で発信を行う。

・研究の状況をホームページに掲載する。

・研究報告及び研究紀要の作成を行う。